

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11011	哲学A	2単位 前期	1~4	講義	安次嶺 勲 (非)

■**テーマ** 東洋哲学・思想の特質を理解しつつ、現代にも適応可能な哲学・思想的なあり方を提示し、現代問題の解決の糸口とする。

■授業の概要

西洋の哲学思想が行き詰まりを呈している現在、西洋の諸思想家はその行き詰まりを打破しようと、東洋の思想に目を向け始め、今や、東洋思想の研究は世界的に広がりつつある。

それに対して、特に明治時代以降、西洋思想を取り入れることに専念してきた東洋人としての我々は、自らの文化の哲学思想をどれだけ理解しているのだろうか。

本講義では、東洋の哲学思想を中心に、その思想的特質と倫理観について考察する。特に、インド哲学・仏教を思想的に概観し、西洋哲学・思想との比較も交えつつ、東洋哲学・思想、更にはそれらと芸術の可能性等について検討する。

■到達目標

- (1) 東洋哲学・思想、特に、インド・中国・日本の思想の特質を正確に理解することができる。
- (2) (1)の理解に基づいた現代問題解決の糸口を提示することができる。

■授業計画・方法

1. イントロダクション
2. バラモン思想 (I)
3. バラモン思想 (II)
4. 自由思想運動
5. 原始仏教 (I)
6. 原始仏教 (II)
7. 中観派の思想
8. 唯識派の思想
9. 如来蔵思想
10. 儒教
11. 老子
12. 道教
13. 日本の思想-原始宗教と仏教の融合- (I)
14. 日本の思想-原始宗教と仏教の融合-(II)
15. **まとめ 「定期試験は実施しない。」**

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

・東洋思想史・哲学史関係の書籍を読んでおくことが望ましい。本講義の講義スタイルは思想の流れを重視する傾向があるので、極力休まず出席することが望ましい。

■成績評価の方法・基準

□**方法** 平常点 (30%) と講義終了後に提出していただくレポート (70%) の両方を評価の対象とする。

なお、レポートの書き方等の詳細については、原則として、

- (1) 2000字から2500字程度の字数で
- (2) レポート作成に際しては、少なくとも、参考資料を一つ以上使用し、使用した参考文献等は必ず挙げる
こと。詳細については講義内で説明する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□**教科書**：本講義では担当者より配布されるプリントで講義を進めて行くので教科書はない。

□**テキスト**：プリント

□**参考文献**：講義の中で適宜紹介する。

11012	哲学B	2単位 後期	1~4	講義	大城 信哉 (非)
-------	-----	-----------	-----	----	-----------

■テーマ 哲学の基本部分を学び、併せ学生諸君の問題関心と結びつけて考察する。

■授業概要

哲学は現代の日本でも大きな影響力を持ちうる有効な思考法だが、主として西洋で発達してきたことも事実である。そこで本講義では、西洋哲学の歴史と問題の立て方を学ぶことで、我々自身の問題を考えるためのヒントを探ることにしたい。学生諸君の問題提起も取り入れたいと考えているので、受講者の積極的な参加を期待する。

■到達目標

- ・哲学とは何を問う学問であるかを理解する。
- ・哲学という学問がかたちをあらわしはじめたころ、プラトンとアリストテレスというふたりの哲学者によってふたつの類型的な考えが提示された（正確にはこのふたりの考えのちにそのように整備されたのだが）が、その違いを概略的にであれ説明できるようになり、それぞれの場面で自分の問題関心に応じて選べるようになる。
- ・自分自身の関心に応じて哲学的な問いを立てられるようになる。

本講座は直接すぐに芸術作品の制作や研究に役立つものではないであろう。しかし間接的になら、十分に芸術を学ぶ諸君の役に立つ筈である。諸君の作家もしくは研究者としての姿勢を問い直すヒントを得られたと、諸君自身が実感できることを目標とする。

■授業計画・方法

基本的には講義形式だが、こちらからも質問するし、受講者もぜひ積極的に発言してほしい。講義担当者と異なる見解が出ることをおおいに歓迎する。なお、講義第8回目以降は上記目標の3番目のものに応じて受講者から提起された問題も含める予定で、以下に掲げるものは（第8回目以降は）叩き台程度に思ってくれてかまわない案である。

- (1) 哲学とはどういう考え方か。成績評価の方法も含め、受講者との共通理解の構築。
- (2) 世界観や人生観とどう違うか。
- (3) 哲学史1（古代ギリシア 哲学の黎明）。
- (4) 哲学史2（知恵とは何か ソクラテス）。
- (5) 哲学史3（理性によって知ること プラトン）。
- (6) 哲学史4（現実の多様性を知ること アリストテレス）。
- (7) ここまでのまとめ あらためて哲学とはどういう考え方か。
- (8) 現代の問題1（倫理について）
- (9) 現代の問題2（知ることについて① 確実さのこと）。
- (10) 現代の問題3（知ることについて② 知ることと信じること）。
- (11) 現代の問題4（在ることについて① 世界とは何か）。
- (12) 現代の問題5（在ることについて② 私が「私」であること）。
- (13) 哲学は役に立つか。
- (14) 諸学との関係。
- (15) 専門分野としての哲学と教養としての哲学。「**期末試験は実施しない。**」

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

特になし。受講以前に哲学の知識があるかないかは問わない。途中で必要となる知識もおおむね図書館の事典類で調べられる程度である。ただし初回に受講者諸君と話し合っただまかな方針とルールを決めるので、この日はぜひ参加されたい。他に初期ギリシア哲学について資料を配布するので、これは必ず読んだうえでレポートに反映させるように。

■成績評価の方法・基準

□方法

講義 15 週目にレポートを課すつもりだが、講義初回に受講者の意見を聞いて、多少変更を加えるかもしれない。なお、出席数は単位取得の必要条件で、これを満たさない者はそもそも採点対象にならない。それ以外に平常点は特に成績評価にかかわらない。むろん積極的に参加することを希望するし、質問などもおおいに歓迎するが、それは受講者自身が深く学ぶためになされるべきことで、直接に成績評価を目的とすべきものではないと考える。規定の出席数を満たしていたらあとはすべてレポートで評価するので、パーセンテージを強いて言えばレポート 100%である。

□基準

到達目標を観点として、履修課程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書 使用しない。教室ではプリントを配布する。

□参考文献 講義の進展に応じて教室で指示する。

教科書は用いないが、こちらは必ず読むように。

つねに参照した方がよいものは、まずは以下の三つの事典類である。

- ・廣松渉他編『岩波哲学思想・事典』（岩波書店、1998年）
- ・『哲学事典』（平凡社、1971年）
- ・上智学院新カトリック大事典編纂委員会編『新カトリック大事典（全5巻）』（研究社、1996-2010年）

最後のものは宗教の事典ではないかと訝る向きもあると思うが（実際に宗教の事典だが）西洋文化、思想についての優れた事典ともなっていて推奨できる。

他に、沖縄県立芸術大学図書館の蔵書にないが、大庭健他編『現代倫理学事典』（弘文堂、2006年）も優れている。大学図書館以外で参照できるなら勧めたい。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11021	宗教学	2単位 後期	1~4	講義	赤嶺 政信 (非)

■**テーマ** 沖縄を含む世界各地の宗教文化について、文化人類学の立場から学習する。

■**授業概要**

本講義では、文化人類学の視点から世界の様々な宗教現象について学習していく。文化人類学的視点とは、特定の宗教や宗派の教義の是非について検討するのではなく、社会・文化現象として宗教を捉え、それを社会科学的方法によって理解することを意味する。沖縄の民俗宗教もとりあげ、ビデオ教材も積極的に活用する。久高島の民俗探訪を実施する。

■**到達目標**

世界の様々な宗教現象について、文化人類学的視点から理解できるようになること。

■**授業計画・方法**

- (1) オリエンテーション
- (2) 儀礼
- (3) 通過儀礼としての久高島のイザイホー
- (4) シャーマンと司祭ー沖縄のノロとユター
- (5) 邪術と妖術
- (6) 神話と祭祀
- (7) 久高島巡見
- (8) 宗教的ケガレ観念
- (9) インドのカースト制度
- (10) インドネシア・バリ島の宗教文化
- (11) 沖縄の神観念
- (12) 死の人類学
- (13) 沖縄の年中祭祀①
- (14) 沖縄の年中祭祀②
- (15) 講義のまとめ・期末試験

注：順序は変更があり得る

■**履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）**

特になし

■**成績評価の方法・基準**

□**方法** 平常点 (30%)、期末試験 (70%) にて評価する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■**教科書・参考文献（作品）等**

指定教科書はなし。文献は講義の中で適宜紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11033 (11031)	言語学A (言語学I)	2単位 前期	1~4	講義	波平 八郎

■テーマ

言葉はそれが使われるコンテキスト（場面・文脈）によって微妙に変化することを理解する。

■授業概要

本講義では、日本語を中心にして、言語を主に社会言語学のアプローチで概観する。社会言語学とは、言葉を使う人が所属するグループとの関係で言葉の使われ方を研究する方法である。

■到達目標

ある社会的、文化的な集団の中で、言語が微妙なバリエーションを持つということを説明できるようにする。

■授業計画・方法

- (1) 履修ガイダンス
- (2) 言語の数
- (3) 方言と言語
- (4) ダイグロッシア
- (5) 社会言語学の概観
- (6) ラボフの研究
- (7) 社会方言
- (8) 言語のバリエーション
- (9) 言語とコンテキスト
- (10) 日本語のバリエーション
- (11) コードスイッチング
- (12) スピーチ・アコモデーション
- (13) 非言語コミュニケーション
- (14) ピジンとクレオール・罰札・ドーデ「最後の授業」
- (15) 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

受講生は、言語についてのレポートをまとめ、授業中に発表することが求められる。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（出席を含む30%）・レポート（20%）・試験（50%）を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書

なし。授業中に適宜プリント等を配布する。

□参考文献（作品）

田中克彦『ことばと国家』（岩波新書）

東照二『社会言語学入門』（研究社）

その他

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11034 (11032)	言語学B (言語学Ⅱ)	2単位 後期	1~4	講義	波平 八郎

■テーマ

私たちがふだんものを考えたり、行動したりする際にに基づいているものは根本的にメタファー（隠喩）によって成り立っているということを理解する。

■授業概要

本講義では、言語をおもに意味論のアプローチで概観する。意味論とは、ことばの意味やその変化を研究する分野である。とくに、メタファー（隠喩）の使われ方を具体的に見ていく。

■到達目標

認知言語学の基本的な術語である、「メタファー」、「カテゴリー」、「プロトタイプ」等について、具体的な例をあげて説明できるようにする。

■授業計画・方法

- (1) 履修ガイダンス
- (2) 色彩をあらわすことば
- (3) 認知意味論
- (4) カテゴリー①
- (5) カテゴリー②
- (6) プロトタイプ
- (7) メタファー ①
- (8) メタファー ②
- (9) メタファー ③
- (10) メタファー④
- (11) 生活の中のメタファー
- (12) メタファーと概念の体系性・メタファーが創る新しい意味
- (13) メトニミー・シネクドキ
- (14) メタファー研究の広がり
- (15) 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

日本語のメタファーまたはカテゴリーについてのレポート（レポート用紙2枚程度）を提出する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（出席を含む30%）・レポート（20%）・試験（50%）を総合的に判断する。
□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書

なし。授業中に適宜プリント等を配布する。

□参考文献（作品）

- G. レイコフ（池上嘉彦他訳）『認知意味論』（紀伊國屋書店）
J. テイラー（辻幸夫他訳）『認知言語学のための14章』（紀伊國屋書店）
佐藤信夫他『レトリック事典』（大修館書店）
その他

■備考

「言語学B」は、単独での履修も可（「言語学A」を履修していなくても登録可）。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11041	文学概論	2単位 後期	1~4	講義	波平 八郎

■テーマ

物語の構造分析理論を学ぶ。また、物語のおもしろさを生みだしている「型（パターン）」について学ぶ。

■授業概要

本講義では、さまざまなジャンルの物語の構造分析を行う。物語の構造分析とは、登場人物の行動に着目して分析を行い、物語を構成する要素を明らかにする研究方法である。分析の対象とする作品は、童話、小説（『銀河鉄道の夜』など）、映画（『スタンド・バイ・ミー』など）である。

■到達目標

物語の構造分析の理論について説明できること。また、その理論に基づいて物語を分析できること。

■授業計画・方法

- (1) 履修ガイダンス
- (2) 文学研究の理論（「韻」を見つける）
- (3) プロットの理論
- (4) プロットの理論による物語の分析
- (5) 「ヒーローズ・ジャーニー」の理論
- (6) 「ヒーローズ・ジャーニー」の理論による物語の分析
- (7) 作品の上映（『スタンド・バイ・ミー』）
- (8) 物語の分析（1）
- (9) 物語の分析（2）
- (10) 物語の分析（3）
- (11) 大江健三郎の文学理論
- (12) レジリエンスの理論
- (13) レジリエンスの理論による物語の分析（1）
- (14) レジリエンスの理論による物語の分析（2）
- (15) 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

受講生は、物語の構造分析の理論に基づいて、物語の構造を分析してレポートする。または、その理論に基づいてあらすじを一つ書き上げる。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（出席を含む30%）・レポート（20%）・試験（50%）を総合的に判断する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書

なし。授業中に適宜プリント等を配布する。

□参考文献

- V. プロット（北岡誠司他訳）『昔話の形態学』（水声社）
- R. バルト（花輪光訳）『物語の構造分析』（みすず書房）
- その他

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11044	中国文学	2単位 後期	1～4	講義	李 舒陵 (非)

■**テーマ** 中国古典文学概論。著名な作品を通して学ぶ時代毎の中国文学の特徴と変遷。

■授業の概要

中国文学の歴史について、各時代の大まかな特徴を概略的に確認し、それぞれ時代の代表作を通して文学の系譜を概観する。本講義では、先秦から近現代まで多様なジャンルの文学作品を紹介する。

■到達目標

- ・中国文学の大きな流れをおさえ、特に中国の韻文史を理解する。
- ・中国文学及び漢語文献を読む際に必要な基礎知識を習得する。
- ・琉球及び東アジアに広がった漢詩文の概略を理解する。

■授業計画・方法

1. 中国文学史概説、神話
2. 漢字について
3. 先秦文学①－『詩経』
4. 先秦文学②－『楚辞』
5. 漢代文学－樂府詩と古詩十九首
6. 魏晋南北朝文学①－陶淵明の代表作について
7. 魏晋南北朝文学②－『世説新語』
8. 唐詩の詩人たちと時代背景＋学生たちのプレゼンテーション
9. 唐代伝奇－『聶隱娘』
10. 宋詞：蘇軾、李清照、辛棄疾の代表作について
11. 明清小説紹介：『三国演義』と『紅樓夢』
12. 琉球漢詩について① 琉球人による琉球漢詩
13. 琉球漢詩について② 冊封使による琉球漢詩
14. 中国の近現代文学の紹介
15. まとめ。定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・実際に漢文や漢詩を読みますので、漢和辞典を持参ください。なかでも三省堂『漢辞海』（第4版）がおすすめです。これはアプリ版もあります。

■成績評価の方法・基準

□**方法** 平常点（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）で評価します。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□**教科書** 授業で配布するプリントを使用します。

□**参考文献** 興膳宏編（1991）『中国文学を学ぶ人のために』世界思想社
佐藤一郎（2014）『中国文学史』慶應義塾大学出版会株式会社

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11046	日本文学	2単位 後期	1~4	講義	波平 八郎

■テーマ

日本文学史の概要を理解する。また、近世（江戸時代）の文学作品の中にいわゆる「言文一致」が見いだせることを理解する。

■授業概要

本講義では近世文学を中心にして日本文学を概観する。あわせて、琉球文学に影響を与えた日本文学の作品を講読する。

■到達目標

日本文学史に即して作家、作品を論ずることができる。また、古文を鑑賞することができる。

■授業計画・方法

- (1) 履修ガイダンス
- (2) 古代前期の文学（万葉集）
- (3) 古代後期の文学（伊勢物語）
- (4) " (源氏物語)
- (5) "
- (6) 中世の文学（とはずがたり）
- (7) " (宇治拾遺物語)
- (8) "
- (9) 近世の文学（好色一代男）
- (10) "
- (11) " (浮世風呂)
- (12) "
- (13) " (噺本)
- (14) "
- (15) 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

日本文学に関するレポートを提出する。どの作品・作家にするかは各自で決定する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 常点（出席を含む30%）・レポート（20%）・試験（50%）を総合的に判断する。
- 基準 達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書

なし。授業中に適宜プリント等を配布する。

□参考文献

『日本古典読本』（筑摩書房）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11045	国語表現法	各2単位 前・後期	1~4	講義	波平 八郎

■テーマ

論文やレポートの文章の書き方を学ぶ。

■授業概要

本講義では、言語表現の理論を学び実践を行う。あわせて、論理的な思考法についても学ぶ。言語表現の理論として最も重要な要素は「パラグラフ（段落）の構造」である。授業ではパラグラフの意義を十分に理解した上で、その書き方を実践していく（パラグラフ・ライティング）。そして、実践を重ねていく中で代表的なパラグラフの書き方を習得する（パラグラフパターン）。

■到達目標

パラグラフ・ライティングの方法で文章を書くことができる。

■授業計画・方法

[前期・後期]

- (1) 履修ガイダンス
- (2) 論文作成の流れ（概観）
- (3) 文の長さ
- (4) パラグラフの構造（1）
- (5) パラグラフの構造（2）
- (6) パラグラフの構造（3）
- (7) パラグラフのパターン（1）
- (8) パラグラフのパターン（2）
- (9) 事実と意見（1）
- (10) 事実と意見（2）
- (11) 引用の仕方・出典の示し方（1）
- (12) 引用の仕方・出典の示し方（2）
- (13) 要約の仕方
- (14) Wikipedia 等ネット上のデータの引用について
- (15) 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

宿題として小論文が課されるので、A4判、横書きの原稿用紙を用意すること。提出期限に遅れないこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（出席を含む30%）・小論文（30%）・試験（40%）を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献

□教科書

木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）

その他（授業時にプリントを配布する）

□参考文献（作品）

授業中に適宜プリントを配布する。

■備考

前期の授業と後期の授業は同一の内容。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11046	日本文学	2単位 後期	1~4	講義	波平 八郎

■テーマ

日本文学史の概要を理解する。また、近世（江戸時代）の文学作品の中にいわゆる「言文一致」が見いだせることを理解する。

■授業概要

本講義では近世文学を中心にして日本文学を概観する。あわせて、琉球文学に影響を与えた日本文学の作品を講読する。

■到達目標

日本文学史に即して作家、作品を論ずることができる。また、古文を鑑賞することができる。

■授業計画・方法

- (1) 履修ガイダンス
- (2) 古代前期の文学（万葉集）
- (3) 古代後期の文学（伊勢物語）
- (4) " (源氏物語)
- (5) "
- (6) 中世の文学（とはずがたり）
- (7) " (宇治拾遺物語)
- (8) "
- (9) 近世の文学（好色一代男）
- (10) "
- (11) " (浮世風呂)
- (12) "
- (13) " (噺本)
- (14) "
- (15) 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

日本文学に関するレポートを提出する。どの作品・作家にするかは各自で決定する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 常点（出席を含む30%）・レポート（20%）・試験（50%）を総合的に判断する。
- 基準 達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書

なし。授業中に適宜プリント等を配布する。

□参考文献

『日本古典読本』（筑摩書房）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11047	琉球文学	2単位 前期	1~4	講義	波平 八郎

■テーマ

琉球文学の文学史の概要を理解する。

■授業概要

本講義では、主に琉球語によって形づくられた作品を概観する。作品のジャンルは(1)歌謡、(2)琉歌、(3)説話文学、(4)劇文学、である。また、(5)沖縄の近代文学の作品も取りあげる。さらに、沖縄に関係のあるさまざまな作品を(6)その他、として紹介する。

■到達目標

琉球語によって表現された文学作品を鑑賞することができるようにする。また、沖縄の文学史を説明できるようにする。

■授業計画・方法

- (1) 履修ガイダンス
- (2) 歌謡 (1)
- (3) 歌謡 (2)
- (4) 琉歌 (1)
- (5) 琉歌 (2)
- (6) 琉歌 (3)
- (7) 琉歌 (4)
- (8) 琉球説話文学 (1)
- (9) 琉球説話文学 (2)
- (10) 評論 (1)
- (11) 評論 (2)
- (12) 沖縄の近代文学 (1)
- (13) 沖縄の近代文学 (2)
- (14) 沖縄の近代文学 (3)
- (15) 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

一つの作品 (または作家) についてのレポートをまとめ、授業中に発表することが求められる。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 (出席を含む30%)・レポート (20%)・試験 (50%) を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 等

□教科書

沖縄県教育文化資料センター編『新編 沖縄の文学』(沖縄時事出版)

□参考文献 (作品)

適宜授業中に指示する。